

授業科目 学習・認知心理学

【担当教員名】 長塚康弘	対象学年	3	対象学科	言語
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

【＜概要＞又は＜一般目標：G I O＞】

心理学の基礎的知識がすでに習得されていることを前提に、人間行動の基礎となる学習および認知に関する最近の心理学的知識・情報を紹介し、理解の深化をはかる。その際、基礎的知識・考え方と併せて臨床的、応用的場面における学習および認知の意義についても具体例を示して述べる。

【＜学習目標＞又は＜行動目標：S B O＞】

学習や認知に関する重要な用語を知識として習得するのみではなく、それらが日常生活および職業労働の場においてどのように現れているかを理解できるように促して生きたい。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	＜学習の心理学＞ 学習の心理学的定義、学習の生じる諸側面(文字・言語、感覚-運動スキル、技能、社会的スキル等)正の学習・負の学習(生活習慣病、学習性無力症、犯罪・非行等の手口フォーム等)		原則として「講義形式」でおこなうが、適宜質問を呼びかける。講義への積極的参加を期待する。種々のデモンストレーションのほか若干の実験(学習効果の転移や伝達による記憶の変容などについて)を予定している。
2	学習の理論 連合理論(条件反射、オペラント条件づけ、試行錯誤)、認知理論(洞察)		
3	学習の規定要因 練習(反復)、学習結果のフィードバック、モチベーション、転移		
4	記憶の諸相、県急報、忘却(量的側面と質的側面)、記憶・言語と大脳		
5	問題解決過程としての思考 概念形成、言語と思考、問題解決の方略、思考の阻害条件		
6	知能の心理 知能とパーソナリティ		
7	創造性の心理 推理、推論、生産的思考		
8	＜認知の心理学＞ 感覚(認知の基礎(門)としての刺激感受)系の生理的構造 神経系と感覚系		
9	感覚、知覚、認知の関係 成立過程、知覚の選択性と諸条件、特性		
10	空間知覚と運動知覚		
11	感覚・知覚のモダリティ(視、聴、味、嗅、触)と相互作用、ニュールック心理学の業績		
12	知覚に及ぼす経験効果、パーソナリティの効果、認知と行動		
13	認知と意識 覚醒、睡眠および夢、		
14	われわれの生活行動に偏在する感覚遮断(剥奪)(sensory deprivation)状態		

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書 (必ず購入する書籍)	青木民雄、長塚康弘ほかによる心理学要論(福村出版)のうち、長塚担当の「知覚」および「意識」に関する章ほか学習および認知心理に関する章のコピーを使用する。購入方法については開講後に教室で伝達する。			
参考書				
その他の資料	随時資料プリント等を使用する。			
【評価方法】 出席、平素の学習状況(ノート提出による)および定期試験等の結果を総合して評価する。		【履修上の留意点】 1 聴講中の私語を極力遠慮すること。 2 授業中および時間外での積極的質問を期待する。		